

資質能力の向上を目指す現職教育

— 組織の一員として機能し、資質能力の高い教職員の育成 —

## I はじめに

急激に変化する社会をたくましく生き抜く力を育むため、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や、学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成等が、強く求められるとともに、いじめ・不登校への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用等、新たな学びを支える教員の資質能力の向上が課題となっている。このため、本研究部会では、マネジメント力を有する校長のリーダーシップの下で、チームとして組織的かつ効果的な現職研修がどのように取り組まれたか、各校の実践を通して研究した。

## II 研究の概要

### 1 各校の取組

#### A校

個々の得意分野を生かす

校務分掌を複数担当とし、仕事内容の整理と明確化した。さらに、個々の得意分野を校内研究等において発表し合った。専科的な指導方法やIT機器活用、NIEの利用方法等を互に学習した。また、授業力向上として一人一実践の授業公開を行い、互の授業の参考とした。同僚の指導を見ることによって、新たな意欲につながった。

#### B校

組織マネジメント手法の活用

年度当初、各分掌経営に組織マネジメントの手法を生かすために、基本的事項の研修を行った。また、教職員評価の目標と評価基準の設定方法、PDCAサイクル、数値目標、スケジュール管理等について個別指導を行った。これにより目標の明確化、スケジュール管理意識の浸透、評価の明確化、分掌経営に係る仕掛けの明確化が図られた。

#### C校

「手入れ、てこ入れ、いい準備」を合い言葉に

各自が、校務分掌で迫りたいイメージの実現に必要な具体的行動を洗い出し、さらに、それを映像イメージにまで細分化し評価しやすい具体的行動目標と、他の職員にてこ入れしてほしい点を明確にする。これらに関するPDCA確認作業を学年ブロックごとに適宜行って達成状況を確認し、戦術の修正を図るようにした。見え難かった他クラスの様子が共有され、子供の事実在即して語り合え、意義深かった。

#### D校

校内研を核とした学校づくり

授業を重視し、校務分掌の単純化、諸会議の精選、授業実践のカリキュラム化を行

った。次に、教師の指導力向上のために、授業公開及び研究会が日常の授業改善に役立つよう授業研究会の充実を図った。さらに、学級経営充実のために「学級力向上プロジェクト」に全職員で取り組んだ。見識ある常任アドバイザーに支えられ、全教職員で授業を公開し合い、学び合うことができた。今後も「教師力・学校力・人間力」の育成に真摯に取り組みたい。

#### E校

職務を通じた資質能力の向上

校内組織及び分掌等の業務の重点化と明確化を行った。また、職員の分掌等配置については、相互補完・学び合いに留意し、適材適所を心がけるとともに、児童、保護者との関係にも配慮した。さらに、校内研修では、生きる力の育成に向け、授業実践を通して、指導の在り方を互に吟味するとともに、指導方法等、成果の共有化を図った。

#### F校

人間的魅力とプロ意識をもつ教職員の育成

学校教育目標の徹底，児童への接し方，自己研鑽，服務規律確保等について常に指導するとともに，校内研修等における磨き合いとしての研修活動に加え，学習指導・生徒指導上の課題について，時宜にかなった指導助言を行い，教師としての資質を高める取組を行った。また，教員俸制度を活用し，教職員自身のステップアップが図れるよう支援している。

#### G校

日々の職務遂行を通じて

「学校経営の努力点」を意識させるとともに，①研修・会議・行事等において「目的」を意識すること，②児童観察を通して，教師としての「感覚」を鍛えること，③地域資源とのつながりを考えること，④社会の流れを捉えて指導することに留意させた。話合いや情報交換等において内容に深まりがでるなど，変化が現れてきた。

### III まとめと課題

知識や技能が絶えず刷新される変化の激しい今日，自ら学び続け，高い資質能力をもった教員の育成は急務である。こうした中，本研究を通じて，次の点を確認できた。

まず，各校長が，教職員の資質能力を高めるために様々な方策や場をOJTとして設定しており，特に，共通するものや特徴的なものは，「教職員それぞれの資質や能力を生かす校務分掌や場の設定」「教職員相互に開かれた学校風土の構築と相互理解」「職務の明確化や，組織マネジメント手法の活用」「外部識者の活用」等が挙げられる。さらに，このような方策を実施するに当たって，各校長は，教育に関する理念や識見をもち，地域や学校の状況・課題を的確に把握しながら，目標を提示し，達成に向けて教職員の意欲を引き出すなど，リーダーシップを発揮しており，関係機関等との連携を図りつつ，学校運営全体を視野に入れて総合的にマネジメント能力を働かせ，教職員の資質能力のさらなる向上に取り組んでいることが分かった。

これらを踏まえ，今後も，各校の教育資源を最大限に生かし，教職員の資質能力をさらに向上させるための方途を検討していきたい。

( 部長 内藤 理 )